令和6年度

川内中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

すべての子どもたちの可能性を引き出す教育の実現
～Ｈ２Ｏ（ほめて・励まし・お互いに）～
話合い活動の深化、協働的な学びの創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員 校長：布川美保　教頭：齋藤大志　田宮亘司 教務主任：北田雅哉　研修主任：釜床愛子 学年主任：岩佐亞紀　大谷哲也　山本美代子
大谷　哲也	

校長

布川　美保

【各校の取組状況の把握について】

管理職や教員による授業参観や校内巡視などを通して，取組状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

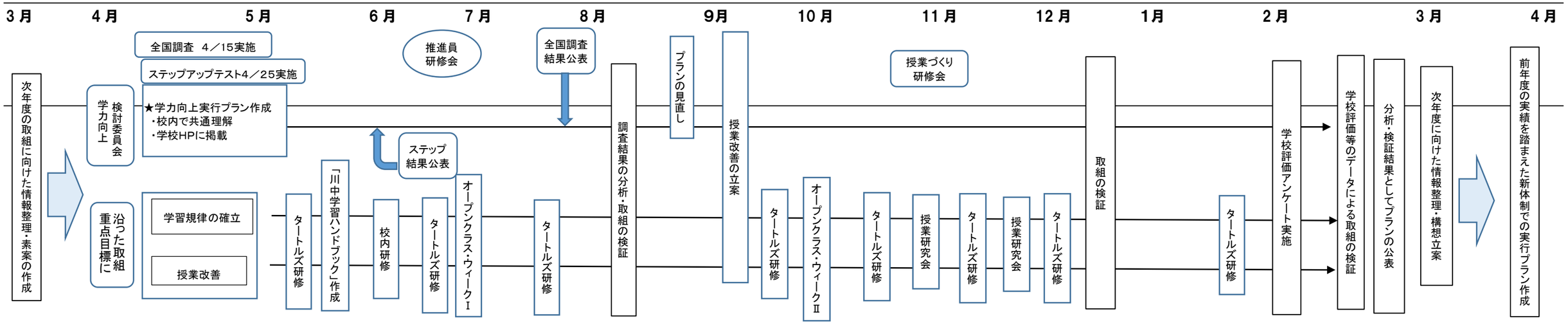
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○提出物が確実にできている生徒の割合が87%、授業内容が理解できている生徒の割合が 84%である。 ●長い文章を読み取ったり、複数の資料から適切な内容を探したりして、要約して書くことに課題がある。	・授業内容をおおむね理解できている。 ・基礎的・基本的な内容を習得している。 ・長い文章を読み取ったり，複数の資料から適切な内容を探したりして，要約して書くことができる。	・単元ごとに小テストを実施する。 ・発達段階に応じた、適切な量・質の課題を与える。 ・朝の読書や図書室の開館など、本に触れる機会を意図的につくる。 ・徳島新聞阿波っ子タイムズの「こども鳴潮」の視写を週１回行う。	・引き続き、「わかる授業」を実践できるよう、授業展開を工夫する。	・アンケートの結果、提出物が確実にできている生徒の割合が 86%、授業内容が理解できている生徒の割合が 82%と低下傾向であった。 ・五教科の授業のうち半数以上で小テストを積極的に取り入れることができた。	・週１回の「鳴潮」の視写を引き続き全学年で行う。 ・授業内容が理解できている生徒の割合を増加させるため，基礎的な学習課題や小テストを取り入れる。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○学級での話合い活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりできる生徒が 79%である。 ●自分の考えを他の人に説明したり、積極的に発表したりしている生徒が 52%である。 ●文章を適切な言葉にまとめて書いたり、聞き手や読み手を意識して適切な言葉を選んだりすることに課題がある。	・各授業における課題に対し、話合い活動等を通して，解決する方法を考えることができる。 ・課題についての説明を、根拠や理由を明らかにして、適切な言語活動により表現することができる。	・話合いや発表にタブレット等の ICT を効果的に活用する。 ・自分の意見を根拠や理由を明らかにして発表したり書いたりする機会をつくる。 ・話合い活動を通して、他者の考えから自らの思考を深める。 ・オープンクラス・ウィークを年２回実施し、他教科等の授業方法を学ぶ。	・１人１台タブレット端末を授業で積極的に活用する。 ・学級で話し合う活動を増やし、生徒が自分の考えを深めたり広めたりできるようにする。	・生徒対象のアンケートの結果、「先生は、１人１台タブレット端末を用いた授業をしてくれる」と回答した割合が 85%、自分の考えを他の人に話したり、積極的に発表したりしている生徒は 52%だった。 ・教員対象のアンケートの結果、基礎基本を身に付けさせ、思考力･判断力･表現力等を育成するための授業改善に努めている教員は 93%であった。	・より積極的にホワイトボードや１人１台タブレット端末を用いた話し合い活動を取り入れた授業実践を行う。 ・自分の考えを他人に話したり積極的に発表したりする機会を増やし、スキルを高める授業実践を行う。 ・オープンクラスウィークを継続して実施する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○チャイム着席ができている生徒の割合が 92%で，学習の準備ができている。 ○自分の課題を理解し、意欲的に取り組んでいる生徒が 80%である。 ●家庭学習の習慣が身についている生徒が 59%であり、宿題以外の勉強をする習慣が身に付いている生徒が 62%である。主体的に家庭学習に取り組むことに課題がある。	・主体的に授業に臨む基本的姿勢が確立でき、学習に課題意識を持って取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、課題を見つけ、その課題を解決できるよう計画を立て、家庭学習で実践することができる。	・「授業のルール１０か条」を全学級に掲示し、ほめて励ます指導を通して学習規律を徹底する。 ・各授業で「めあて」と「振り返り」を行い、見通しのある授業を展開する。 ・川中学習ハンドブックを活用した家庭学習を行う。 ・テスト前に、学習記録表を配布し、目標の設定や学習状況の記録、テスト後の振り返りをさせる。 ・タブレットを活用した自主的な家庭学習を促す。	・引き続き、学習規律の確立のための取組を続ける。	・チャイム着席ができている生徒の割合が 93%、自分の課題を理解し、意欲的に取り組めている生徒の割合が 80%であった。 ・提出物を確実に提出できている生徒の割合は 86%，宿題以外に家庭で学習する習慣がついている生徒の割合は 58%であった。	・家庭学習の計画や記録を作成する機会を増やす、模範的な自主勉強ノートの掲示を継続的に行うなど、目的や課題意識をもって主体的に学習に取り組めるような手立てを行う。 ・１人１台タブレット端末を活用し、自ら学習に取り組めるようにする。

令和6年度　学力向上ロードマップ